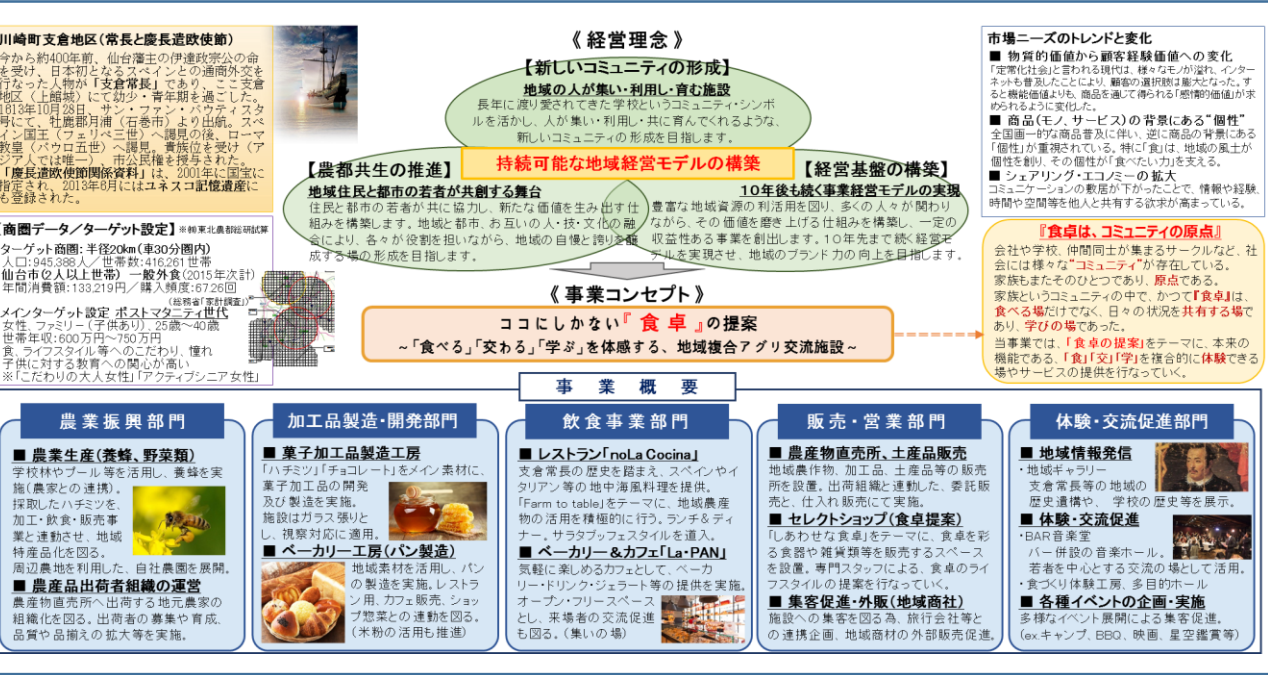


地域共創夢舞台「支倉 6 次産業化コミュニティ形成プロジェクト」

当プロジェクトは、平成28年春、川崎町が公募した「旧小学校活用事業」に対して、(株)東北農都総研が提案した事業プランであります。プロジェクト理念は「持続可能な地域経営モデルの構築」であり、「ココにしかない『食卓』の提案」をコンセプトに、地域の農山資源を活用しながら、主に「食」を中心とした地域複合アグリ交流拠点の実現を目指します。

事業は5つの部門で構成され、レストランやカフェ等の「飲食事業」、特産品開発やベーカリー製造等の「加工品製造・開発」、農産物直売所や土産品販売等の「販売・営業」を中心に、「農業振興」「体験・交流促進」を相互に連動させることによって、地域の魅力を発信しながら、10年後も続く持続可能な地域経営基盤の構築を図っていきます。



今後の旧支倉小学校再生プロジェクトについて

事業開始に向け、旧支倉小学校の再生プロジェクトでは、「地域再生」「農業振興」「食ビジネス」等について、様々な勉強会や視察、意見交換の場づくり等を行なっています。今後の予定は随時かわらばんやチラシでお伝えしていきますので、ご興味がありましたら、どうぞお気軽にご参加ください！

全国廃校活用紀行

※このコーナーでは、毎回他地域の廃校事例をご紹介します。

《今帰仁の里 あいあい手作りファーム（沖縄県）》

宿泊施設、飲食店舗、加工体験施設、直売所がある複合施設として、平成24年に廃校となった小学校を再生させた施設です。「食育」をメインテーマに、数多くの加工体験ができるようになっています。

あいあい手作りファームは、近隣の家族連れの他、外国人観光客をターゲットとして事業を行っていることもポイントです。観光産業が発達している、沖縄ならではの戦略といえます。レストランでは地域の自社農場で育てているさまざまな野菜を使ったビュッフェが目玉商品です。わかりやすい目玉商品があることも、リピーターを獲得するポイントです。



施設の利用目的	「食育」を重視した複合施設
年間来場者数	6万5千人（平成26年）
売上額	2億4,000万円(平成26年)
改修費 (総事業費)	3億5,000万円

このかわらばんは、株式会社東北農都共生総合研究所が作成・発行をしています。ご意見やお問い合わせにつきましては、左記の電話番号またはFAX番号まで、ご連絡ください。《支倉小学校かわらばん 編集者：佐藤朋子》



山形県へ、「廃校を活用した事例視察」に行ってきました！

平成29年1月28日（土）に、山形県へ廃校等を活用した施設の事例視察を行いました。朝早くにもかかわらず、20名の方にご参加いただきました。前日まで山形方面では天候不良が予想されておりましたが、晴天に恵まれ、無事に視察を行うことができました。

まず、山形県庄内町にある「新産業創造館 クラッセ」を訪問しました。クラッセは、地域の6次産業化を推進するために作られた複合施設です。地域の農産物直売所のほかに、共同加工所や貸しオフィスも設置されています。共同加工所では、地域の農業生産者や企業などが商品開発を行うことができ、作られた商品は併設されている直売所「あっでば」で販売できるような仕組みが整えられていました。

また、昼食は「アル・ケッチャーノ」で有名な奥田政行シェフがプロデュースしている併設レストラン「やくけっチャーの」で、地域特産の肉を使った料理や、庄内町でとれた野菜のサラダ等をいただきました。

施設を運営している方から施設の概要や取り組みについてお話を伺うことができ、質疑応答では、地域住民のかかわり方や来場者数等について、具体的な質問が多くありました。

視察当日の行程	
9:00	伝承館 出発
11:30	新産業創造館『クラッセ』視察
15:00	山形まなび館 視察
16:10	山形まるごと館 紅の蔵 視察
17:30	伝承館到着 到着後、希望者の方と懇親会を行いました。



クラッセ 共同加工所を視察している様子

次に訪れた山形市「観光文化交流センター 山形まなび館」は、休校となった小学校の一部を使い、地域住民の交流の場と、観光客への情報提供の場として活用している事例の視察を行いました。小学校を活用するまでのいきさつや、利用者層の内訳、収益構造まで詳しく説明いただきました。また、廃校となった小学校ならではの「コスプレイヤー」のイベントなどにまなび館を開放していることや、



まなび館では、早咲きの桜が咲いていました。



以前の校舎そのままの雰囲気が残る教室

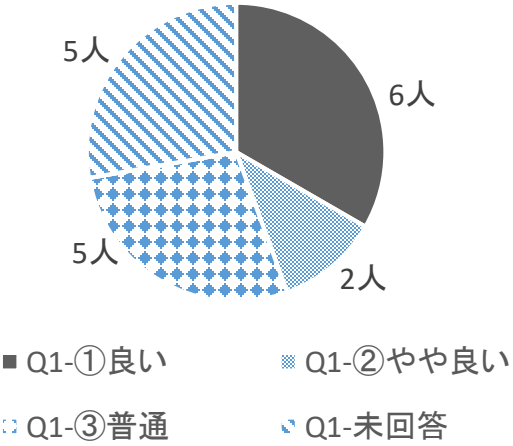
地域に向けた広報の仕方、市が行う事業との連携等、さまざまな事業に取り組んでいることを伺いました。地元住民とのかかわりは、この施設を使ってもらうほかに、毎月朝市を行い、野菜や手作り加工品を出店しているそうです。

最後に、山形市「山形まるごと館紅の蔵」にて、地域の特産品や農産物の販売状況を視察しました。ここでお土産を買って帰った方も多いのではと思います。

視察を終えてのアンケート

今回は盛りだくさんな内容の視察だったため、アンケートにもたくさんの感想をいただきました。そこで、いただいた回答の中から一部を抜粋してご紹介します。

Q1.視察の全体的な評価 (回答者18人中)



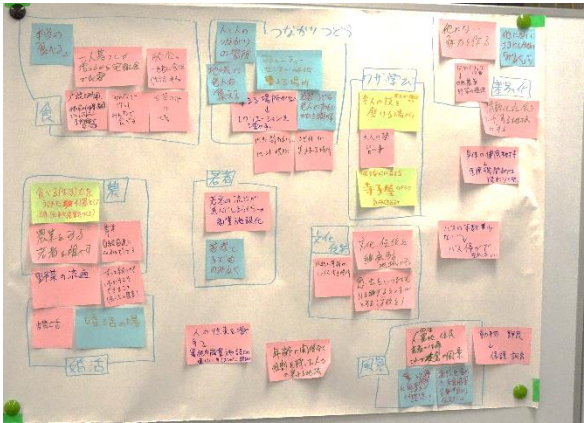
視察全体の感想についてお伺いしたところ、約半数の方から、普通以上の評価をいただきました。特に参考になった視察先のクラス、まなび館についても、右記のようなご感想をいただきました。施設そのものへの興味、関心が高かったことや、今後の支倉小学校事業に活かせるような事例を見ることができたというご意見をいただき。ありがとうございました。この視察を今後の事業に活かしていきます。

それぞれの施設で参考になった点
集客をいかにするか（クラス）
貸オフィス施設として一部利用させている所が良かったと思う（クラス）
酒粕から作られたドレッシングは感動した。米蔵をそのような施設にした構想を現実化したこと素晴らしいと思った。（クラス）
プロジェクト支援事業補助金や、町の指定管理者の指定をうまく利用し、着実に事業が行われていた。（クラス）
共同利用加工場が良かった（クラス）
クラスは参考になりました。全体的に余裕をもって時間をとって質問する時間などもしっかり設けておくことが良いと思う。（クラス）
定期的にマルシェを行っている点（まなび館）
地元の考えだけで無く外部（他県も含む）の意見を聞くことが良いことになるのではないか（まなび館）
若い人が寄ってくるイベント（まなび館）

第2回「旧支倉小学校の未来を考えるつどい」を開催しました

2月18日土曜日、旧支倉小学校にて「第2回旧支倉小学校の未来を考えるつどい」を開催しました。今回はメインテーマを「支倉小学校を活用する目的って何!？」とし、参加者全員が意見を出し合う場を設定しました。参加者は約15人で、支倉地域の方の他に、今後本砂金小学校で事業を行う方も参加しての会となりました。

話し合うテーマを「廃校になった原因について」「10年後の地域について」「廃校活用の目的について」とし、それぞれのテーマについて意見を交わしました。議論は白熱し、たくさんの意見が出る結果となりました。



最終的に住民の皆さんと考えた支倉小学校を活用する目的は、以下のようにまとめられました。

- ・現在人が流出している支倉地域を、年齢に関係なく役割を持った人々が集まる地域にする。
- ・人口減少とともに産業が衰退した地域に、新しい雇用の場を作ると共に、今まで地域内で行われてきた農業の良さを取り入れ、次の世代に渡していく
- ・時代の変遷により埋もれてしまっていた支倉地域の魅力を発掘し、廃校を含めた支倉の風景を再構築し、後世へ伝えていく。

そのほか、「10年後、このままだと地域の文化や技を受け継いでいく人がいなくなる」「食べる力・生活力を生み出す場所として支倉小学校を活用する」「支倉小学校を中心にして、思い出をいつまでも引き継げるシンボルとする」といった意見もありました。どの意見もとても参考になるもので、今後の活動に生かしていきたいと思います。

また、これからもこのような少人数でのつどいなども企画していきますので、気になる方はぜひご参加ください。